

第46回 市政e-モニターアンケート 「性的マイノリティについて」

【テーマ】 性的マイノリティについて

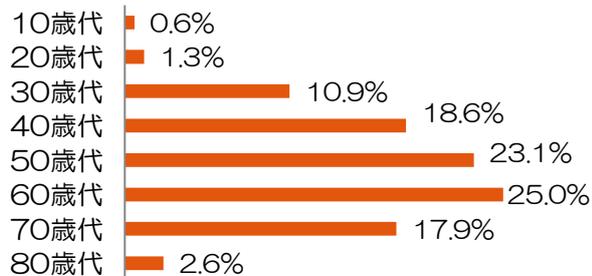
【目的】 鎌倉市では、多様性を尊重し、互いに認め合う「共生社会」の実現に向けて、様々な取り組みを進めています。

今回は、少数派であるために周囲の人の無理解や偏見から、困難を抱えている性的マイノリティの方々について、みなさまの意見をお聞かせください。

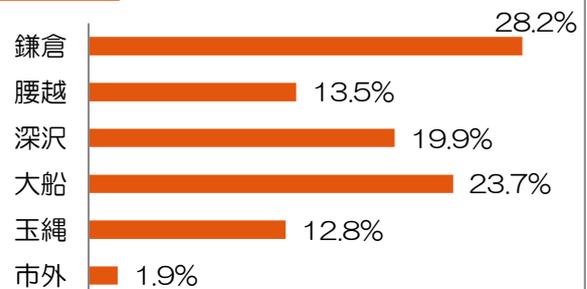
- ◆ アンケート送信日 : 令和元年(2019年)6月12日(水曜日)
- ◆ 実施期間 : 令和元年(2019年)6月12日(水曜日)～6月26日(水曜日)
- ◆ 送信者数 : 492名(着信者数 453名)
- ◆ 回答者数 : 156名
- ◆ 回答率(対着信者数) : 34.4%(前回より +7ポイント)

【今回の回答者の基本属性】

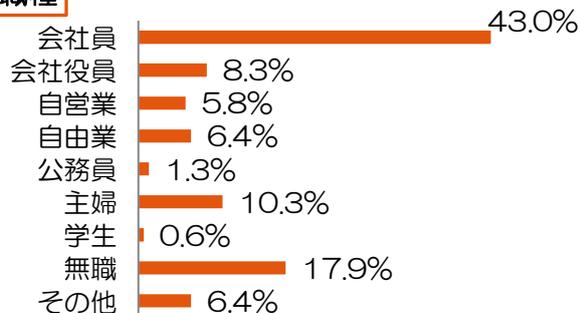
年齢



居住地域

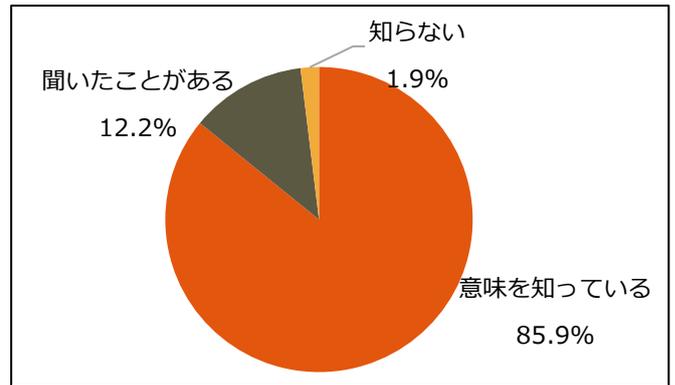


職種



【質問1-1】 (必須) 性的マイノリティまたはLGBTという言葉を知っていますか。(1つ選択)

1. 意味を知っている	134 名
2. 聞いたことがある	19 名
3. 知らない	3 名
合計	156 名

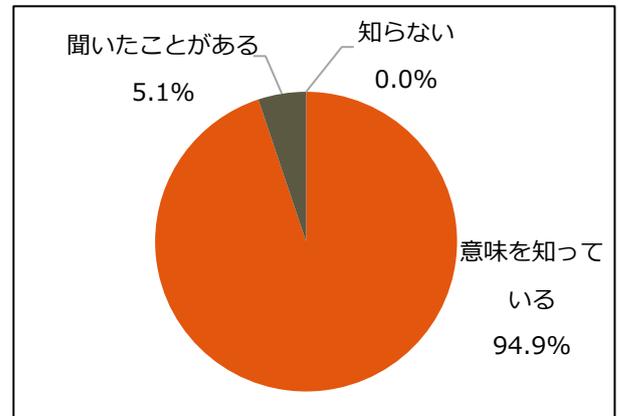


からだの性とところの性が一致しない方、性的指向が同性や両性に向いている方は、社会的に少数派であることから「性的マイノリティ」といいます。

【質問1-2】 あなたは、以下の言葉を知っていますか。

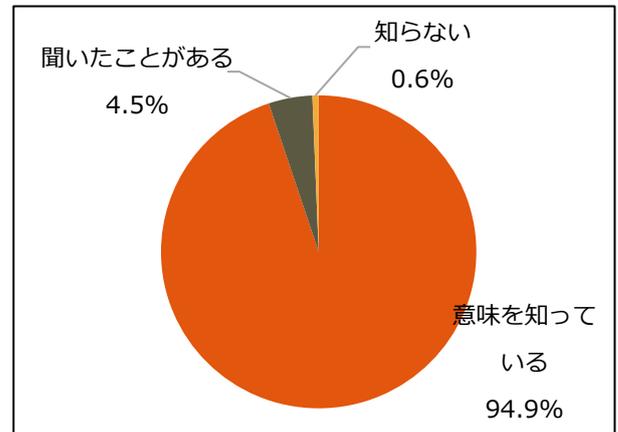
【質問1-2-1】 レズビアン (1つ選択)

1. 意味を知っている	148 名
2. 聞いたことがある	8 名
3. 知らない	0 名
合計	156 名



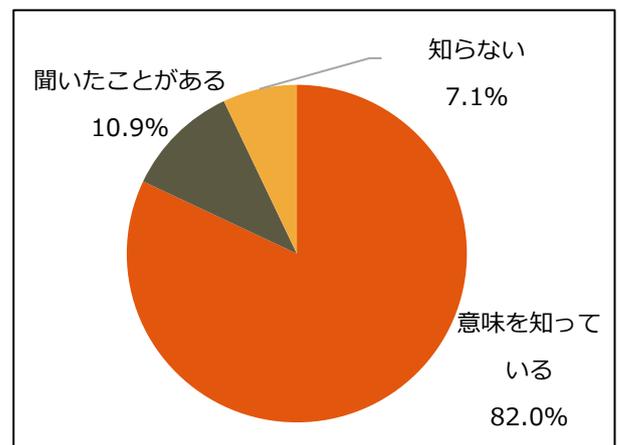
【質問1-2-2】 ゲイ (1つ選択)

1. 意味を知っている	148 名
2. 聞いたことがある	7 名
3. 知らない	1 名
合計	156 名



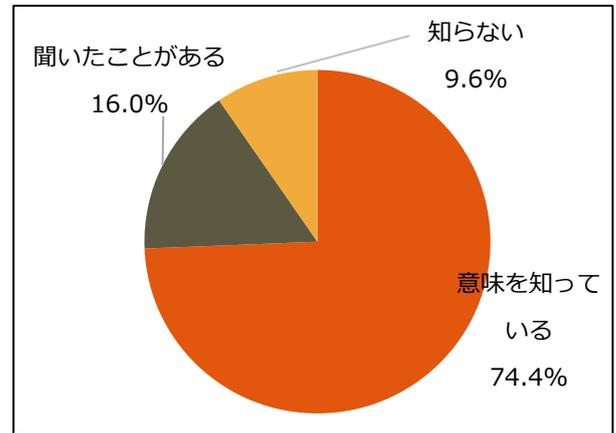
【質問1-2-3】 バイセクシュアル (1つ選択)

1. 意味を知っている	128 名
2. 聞いたことがある	17 名
3. 知らない	11 名
合計	156 名



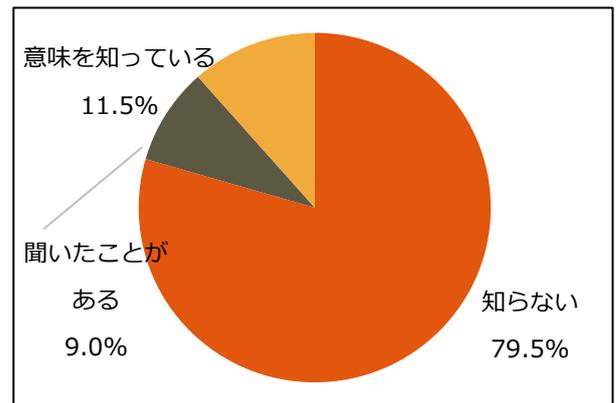
【質問1-2-4】 トランスジェンダー (1つ選択)

1. 意味を知っている	116 名
2. 聞いたことがある	25 名
3. 知らない	15 名
合計	156 名



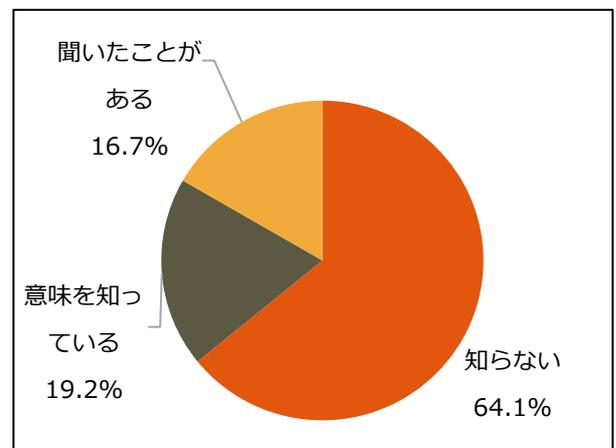
【質問1-2-5】 クエスチョニング (1つ選択)

1. 意味を知っている	18 名
2. 聞いたことがある	14 名
3. 知らない	124 名
合計	156 名



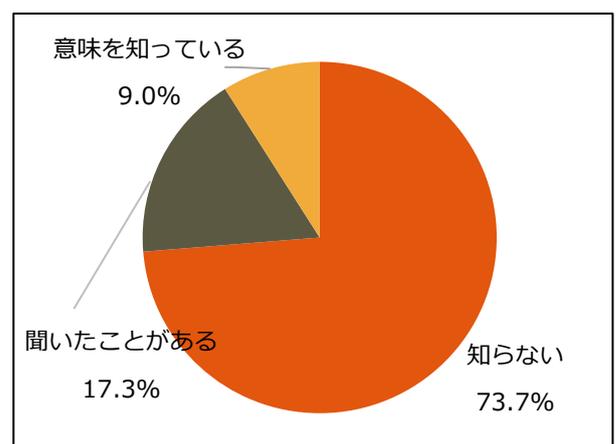
【質問1-2-6】 Xジェンダー (1つ選択)

1. 意味を知っている	30 名
2. 聞いたことがある	26 名
3. 知らない	100 名
合計	156 名



【質問1-2-7】 アセクシャル (1つ選択)

1. 意味を知っている	14 名
2. 聞いたことがある	27 名
3. 知らない	115 名
合計	156 名

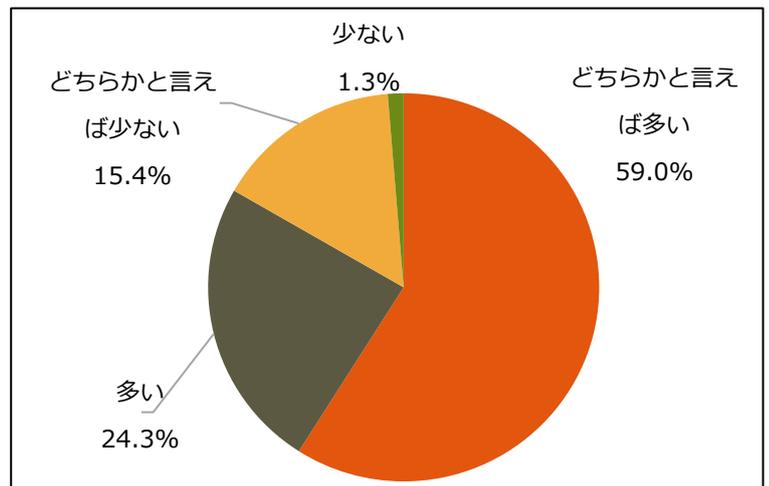


言葉の意味は以下のとおりです。【文化人権課】

- 性的マイノリティ
からだの性とところの性が一致しない、性的指向が同性や両性に向いているなど社会的に少数派である人のこと
- LGBT
レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字をとった言葉で、性的マイノリティの総称のひとつ
- レズビアン
同性を好きになる女性
- ゲイ
同性を好きになる男性
- バイセクシュアル
同性も異性も好きになる人
- トランスジェンダー
性同一性障害などところと身体の性が一致しない人
- クエスチョニング
性自認や性的指向が明確ではない人
- Xジェンダー
性別を決めたくない人
- アセクシュアル
他人に恋愛感情を抱かない人
- 性自認
自分で認識している性別のこと
- 性的指向
好きになる性（恋愛感情がどの性別に向いているか）のこと

【質問2-1】(必須) 民間団体等の調査では、性的マイノリティの方の割合は13人に1人との結果も出ていますが、どう思いますか。(1つ選択)

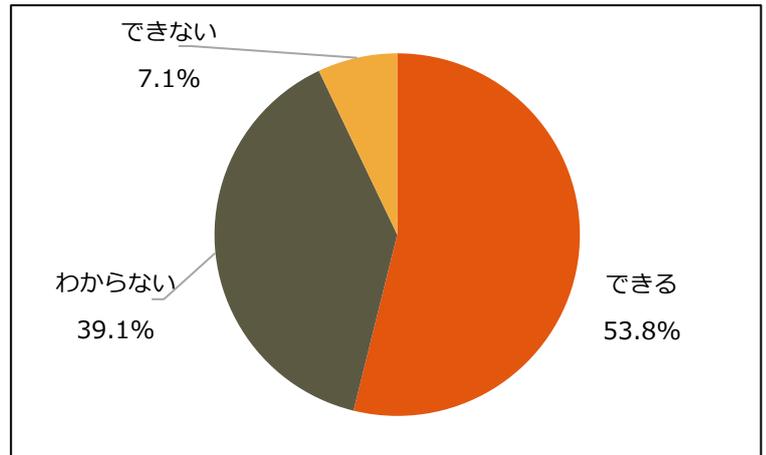
1. 多い	38 名
2. どちらかと言えば多い	92 名
3. どちらかと言えば少ない	24 名
4. 少ない	2 名
合計	156 名



自分の意志で性的マイノリティであると公表することを「カミングアウト」といいます。

【質問2-2】(必須) あなたは、親しい方(家族、友人など)からカミングアウトをされた場合、これまでと変わりなく接することができますか。(1つ選択)

1. できる	84 名
2. できない	11 名
3. わからない	61 名
合計	156 名



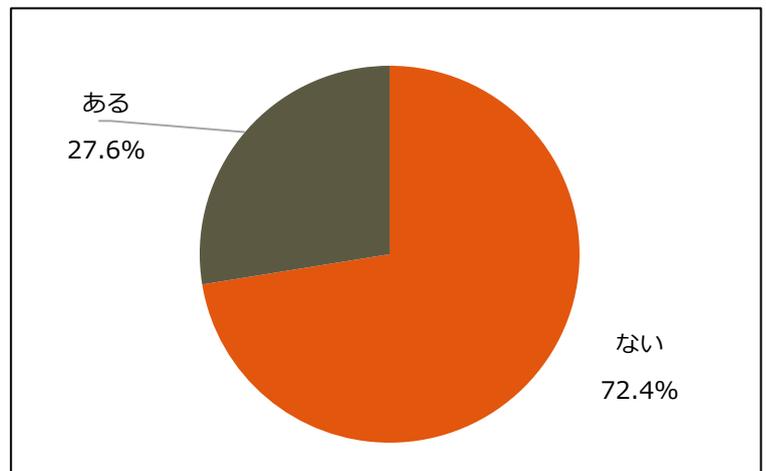
【質問2-2-1】「できない」とお答えの方にお伺いします。その理由を教えてください。

- 接し方が分からない。(他1名)
- 実生活を十分知らないため。
- どうしても好奇心で見えてしまうと思う。
- 自分に好意を向けられても応えることができないため。
- 耐えられない。
- 自然の摂理に反している。元々親しければ知らないふり。ゲイの先輩と同室で休むことも問題ないが、新たに親しくなろうとは思わない。
- 不自然だから、どう対応していいかわからない。
- Gは部下に居ましたが普通に仕事はできました。正直言って気持ち悪いですね。
- LGBがカミングアウトする意図が理解できない。LGBは隠れて好きにしていれば干渉しない。Tは病気なので理解して手助けしたいと思う。
- 例えば、配慮してあげることも必要になるので、全く「できない」ということはない。むしろ「できる」という人は、配慮をしないということになるので口先だけの偽善者だと思う。

WHO(世界保健機関)が同性愛を「国際疾病分類」から削除することを決議し、同性愛は病気ではないと認められました。しかし、いまだ心ない言動がメディア等からも見受けられます。

【質問3-1】(必須) あなたは、あなたの周りで性的マイノリティに対する偏見や差別を見聞きしたことがありますか。(1つ選択)

1. ある	43 名
2. ない	113 名
合計	156 名



【質問3-1-1】「ある」とお答えの方にお伺いします。その内容を教えてください。

【周囲での体験など】

- 皆、わざわざ触れないだけ。言葉の差別が一番。そして態度。視線などたくさん感じます。きもちわるい、受け入れられないとの発言(高年齢層になればなるほど多い傾向があるような気がしています)。
- 仲間との飲み会とかに誘わなくなった。
- 公表した途端に仲間内から疎遠になっていった。
- 自分自身も含め無意識に差別的な発言や思考をしている。
- 軽蔑の言葉を陰でぶつけていました。
- くねくねしてる男性がいるとゲイだと決めつけてしまう。くすっと笑ってしまう。バイセクシャルの人が、デートする、と言うと、「相手は男の人？女の人？」と気になって聞いてしまう。全部自分のことです。
- お釜、丸山明宏、シスターボーイなど差別したがる。
- その人が性的マイノリティであることを面白おかしく他人に話す。
- 男児がレースに憧れたりするのを父親が怒ったり、そのような意識が日常的にみられる。
- 「コレ」じゃないの？とって笑う。市役所がこのようなアンケートを取ることで、偏見であり差別である。そういう人が周囲にいないのが当たり前という前提で話が進むことが多い。そういう人たちは、特殊という考え方がまだ強いと思う。誰か個人を攻撃したり批判しているわけではないが、差別や偏見を感じる。
- 70代の母親は、40代くらいからいわゆる「オカマタレント」のことを「気持ち悪い」と言っていた。また、大学生のときには女性っぽい仕草をする男子が「ホモ〇〇」と呼ばれていた。
- 本人に直接では無いけれど、差別用語を使い噂したりする。
- おかしい人と言っている。
- からかい。
- 同性愛は敬遠される傾向にある。
- 具体的事例としては無いが、日頃お付き合いする仲間での会話から同性愛は如何なものか？という、声を聞く。
- 「気持ち悪い」などと蔑視されているのを見た。
- 存在に対してキモイ。賃貸物件を借りるに当たって、何度も断られたと聞いた。
- 宗教的に許されないと聞いているのを聞いたことがあります。
- トランスジェンダーについて頭ではわかっているが、感情的に受け入れられない、という声を聞いたことがあります。
- 性的マイノリティについての講演会で、当事者の方が受けた差別についてお聞きしました。気持ち悪いと言われたり、就職の際に不利になったり、と言う内容であったかと記憶しています。
- 同性愛者はエイズ感染者が多く危険である、という話を聞いたことがある。
- 家族から親不孝などと非難されるケース。SNSなどで気持ち悪い、生産性がないなどと配慮のない言葉を浴びせられるケース。

【マスコミ等で】

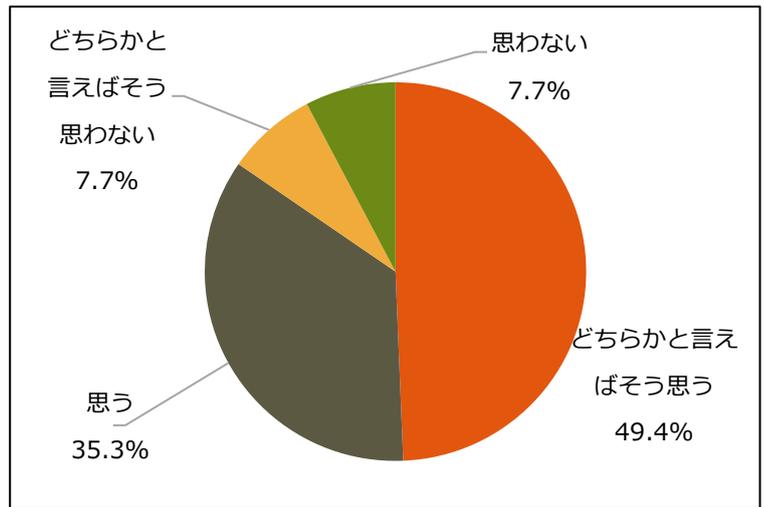
- 自民党の国会議員がLGBTの人を指して子供を作らないので生産性がないと言っていた。(国会議員は直接面識がなくとも市民の周りの人物と判断します。)
- LGBTでもない男性のタレントが女性の恰好をして、テレビで跋扈し、受け入れられているが、逆の現象が殆どない。このようなメディアの現象は、LGBTへの方々への差別そのもの。
- テレビでマイノリティの人を面白おかしく取り上げているのはほぼ毎日見る。
- マスコミの報道内容に載ることがある。
- 報道番組で視聴した。
- 昔の民放はひどかった。時代でしょうか。

【その他】

- 日本の社会はそこまで達していない、まだまだ認めるには根本から見直し、政治体制ももう少しゆるぎないものにならないとダメ。
- セクシャルマイノリティーの方々が結婚したくても婚姻届が出せないこと
- 気持ち悪い。理解できない。
- 一瞬引く。
- 受け入れられない。
- 理解出来ないという内容。
- 娘の友人で、男性とも女性とも別時期に性的につき合っていた人がいる。

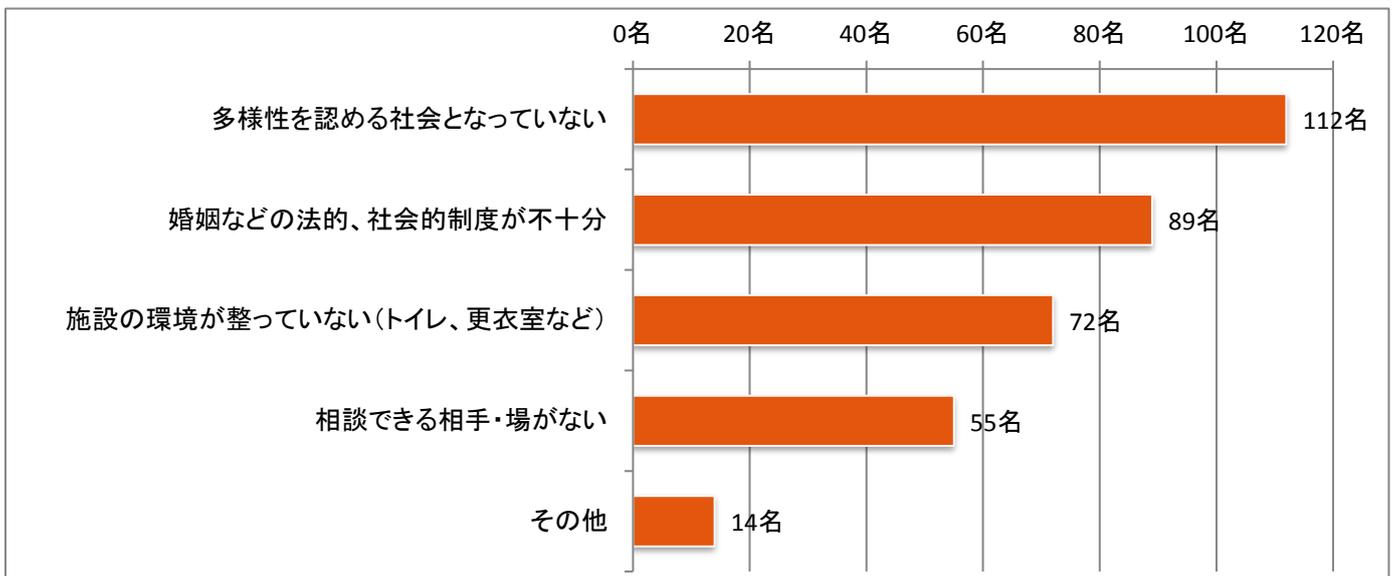
【質問3-2】 (必須)あなたは、今の社会は、性的マイノリティの方々にとって、生きづらいと思いますか。(1つ選択)

1. 思う	55 名
2. どちらかと言えばそう思う	77 名
3. どちらかと言えばそう思わない	12 名
4. 思わない	12 名
合計	156 名



【質問3-2-1】 (必須)「思う」「どちらかと言えばそう思う」とお答えの方にお伺いします。性的マイノリティの方々の生きづらい理由は何だと思えますか。(複数回答可)

1. 多様性を認める社会となっていない	112 名
2. 相談できる相手・場がない	55 名
3. 婚姻などの法的、社会的制度が不十分	89 名
4. 施設的环境が整っていない(トイレ、更衣室など)	72 名
5. その他	14 名



【その他のご意見】

- 市民権を得ていない。
- いるのが当たり前になっていない。
- 市役所が、なんの躊躇もなく、このようなアンケートを実施している。
- 社会システムの整備がある程度は進んだとしても、人々の偏見はいまだに残されていると思いますし、カミングアウトという用語が存在するうちは、ごく普通のこととして認められていないのだと感じます。
- 徐々に多様性を認める社会あるいは風潮になってきてはいるものの、未だに自分の考えこそが正義とと思っている方が一定数いるから。(画一的で独善的、所謂古い考えを持っている高齢の方にこの傾向は強い)
- 年齢が上がるほど理解できないことだと思う。高齢世代では割合として理解できない人が圧倒的に多いから。
- 旧態依然とした考えの政治家が多く、理解が低すぎて改革が進まない。
- 国ものんびりしていると思います。が、地方行政の応援も特になくはないと思います。
- 性的マイノリティに否定的な一部のロビー団体の意向が政策に反映されてしまっているから。

- 学校現場においては、授業も行事も、何から何までが女子、男子の二つに分けられることが多いと思います。このことは性的マイノリティの子どもたちにとり、場合によっては大変居心地の悪いものであると想像されます。教育現場に携わる方が性的マイノリティの子どもたちの存在を身近なこととして捉え、彼らが直面する問題について学ぶ機会を得ることにより、不用意な言葉かけ等で子どもたちを傷つけることが無いようにと願います。
- そもそも多くの方がそのことを学んだり真剣に討論する場に出たこともなく、そもそも情報が少なく言葉だけが理解されぬままに一人歩きをしている。
- どのような配慮を期待されているのかわからない。
- 入院したときの病室など困った病院で働いて、女性ですが男性部屋を希望され、看護師長が尊重し男性部屋にした。

パートナーシップ制度とは、お互いを人生のパートナーとし、日常生活において相互に協力し合うことを約束した制的マイノリティのカップルを自治体が認める制度です（法的な効力はありません）。複数の自治体でパートナーシップ制度が導入されており、鎌倉市でも導入を予定しています。

【質問4】 パートナーシップ制度について自由なご意見をお聞かせください。

【積極的に導入】

- 同性婚を認めるべきです。
- パートナーというのは必ずしも異性である必要はないと思います。共同生活をしながらであれば、財産等も認めるべきだと考えます。鎌倉市でもぜひ導入してください。
- 愛した人がたまたま同性だったただけなのに婚姻届けが出せないことは差別だと思います。住んでいる自治体にパートナーシップ制度がないことで引っ越しせざるを得ない方もいると思いますので、貴重な人口の流出を少しでも避けるためにも早く制度を作ってほしいです。そして、ゆくゆくは同性間の婚姻が認められるような世の中になってほしいと思います。鎌倉市には文化人の方やインフルエンサーになる方など多く住んでいると思うので、鎌倉市でパートナーシップ制度が認められることでLGBTの啓蒙活動もしていけるのではないかと思います。
- 昔は、恥ずかしいとか世間体がとか様々な誤解や偏見があったと思いますが、生きて行きやすい制度は是非導入してほしいです。
- 鎌倉でも早く導入するとういと思います。
- 是非、早く鎌倉市でも導入してください。同時に、相談室を作ってください。
- きちんと法的な対応を整備すべき。
- 導入すべき、早急に導入すべきだ。
- 積極的に推進してほしい。
- 大いに推進していくべき。
- 一刻も早く導入すべき制度であり、市民に意見を聞くような問題ではない。
- 暮らしやすい街として積極的に進めてください。
- 性的マイノリティの方もそうでない方も、全ての方が自分を偽ることなくありのままにイキイキと日常生活を営める様、サポートすべきだと思います。将来的に性的マイノリティの方が珍しくない世の中になれば、こうした制度も必要なくなると思います。そこが最終目的地だと思います。
- どんどん大きくすること。
- 異性の婚姻と同等の権利を認めていただきたいです。
- 制度も環境も（ハードもソフトも）前向きに検討すべき事。
- 異性間結婚と全て同等にするべきだと思います。
- 当事者ではないですが、身近に当事者がいます。全国でどんどん導入をすればよいと思います。
- どのようなことを計画しているのか知りたいです。ぜひ導入を。ただし、人々へのこくちを行い「差別・偏見」を防ぐようにして頂きたい。
- 必要な制度だと思います。将来的には、結婚というものが異性・同性間どちらにかかわらず同じ形となることを望みます。
- 制度悪用などのリスクも踏まえ積極的な運用を検討するべきだと思う。
- 導入するなら、鎌倉市がなぜ、どんな考えを持ってパートナーシップ制度を導入するに至ったのか広報をしっかりと行うと良いと思う。パートナーシップ制度申請の際に、利用者の方へ関連する公的支援や団体の案内、お困りごとのヒアリングも行うべき。
- 将来的には法的に同性婚が認められることが望ましいが、それまでの間、自治体がパートナーシップを結んでいることを証明する証書を発行し、それによって同性カップルが異性カップルと同様に社会的に扱われるように（重病の際の面会の権利など）、不平等がを少しでも減らすべくサポートすべきである。
- 是非導入してください。オランダに駐在していましたが、同性結婚が認められていました。日常的に周りに同性カップルが住んでおり、違和感はありませんでした。
- できると良いと思います。また養子縁組なども可能なら、温かいパートナーとの関係をもつ方に、ご家族に恵まれなかったお子さんが見てもらえる、などの機会の検討もできたら一石二鳥だと思います。
- 家族は、子どもを生むためだけにあるものではないと思っています。パートナーシップで子育てすることや、子育て支援することも可能です。いろんな形を受け入れて、柔軟に対応していくことが、生きやすい社会になるように思います。
- 認めて当然だと思います。導入に賛成です。
- 良いと思います。パートナーとして、社会的な権利や地位を尊重される制度は是非作るべきだと思います。

- 法的に保護すべき。
- すべての人が幸せに暮らす鎌倉市であってほしいと思います。働く方であれば納税義務は課しているのですから、当然の権利として導入すべきだと思います。
- 良いことだと思います。みんなが生きやすい社会になっていけば良いと思います。
- 行政がお墨付きを与えることが第一歩だと思う。
- 法的効力はなくても、第三者に確認してもらえることが必要なことだと思う。
- 導入の方向に賛成です。特別な手順を踏むことで、夫婦とそうでないペアの違いを意識するのではなく、通常の手順で自治体に関わる手続きが進められると良いと思います。
- 導入すべきです。マイノリティに限らず、結婚という法的枠に縛られない男女もお互いにパートナーだと思いますけど。
- すすんで取り入れるべきだと思います。いずれは相続や各種サービスの手続きなど、法的な効力も持たせられたいですね。
- 積極的に導入すべきです。性的マイノリティのカップルから子孫が生まれないにもかかわらず、一定の割合で性的マイノリティの方がおられるということは、その遺伝子は人類の生存にとって何らかの意味を持つのだと思います。科学的に証明されていないだけであって、今後明らかになるかもしれない。だとしたら決して差別や偏見の対象ではないと思います。誰にでも幸せになる権利があります。他人の幸せを脅かすわけでもないのですから、他の自治体に遅れることなく積極的に導入すべきと考えます。
- 好きなもの同士が支え合いながら生きてゆく事が大切ですから、良い制度だと思います。このような議論がなされなくても済むような社会が理想かもしれませんね。
- どういう形が良いのか議論や法整備が必要だが、前向きに検討が進んで欲しい。
- 誰と暮らすかを自由に選び、制度としても認められることはこれからの高齢化社会にも必要。
- 導入に賛成。市はそういう制度の存在を適切に周知していくプランを持つべきと思う。例えば学校でどのようにそれを説明するのか。

【導入に賛成】

- 現代にそんなグループがいれば別に干渉しません。
- 認めない理由は何も無いと思います、鎌倉市も積極的に導入すれば良いと思います。
- 今の世の中では理解すべきことだと思います。
- 本人たちが同意の上で、幸福と思うならそれでよい。
- 広く多様性を認める社会として、制定しても良いと考える。
- 良いと思う。(他2名)
- 良い制度だと思う。
- 良い取組みだと思う
- 導入すべきだと思います。(他1名)
- 認めることに反対しない。
- どの程度の効力があるのかわかりませんが、導入されないよりははるかに良いと思います。まだまだ認知されているとはいえない現状では、法的効力は難しいのかもしれませんが。行政には、少しずつでも世間の理解が進むような働きかけにも期待します。
- 法的効力はないけど、単なる同棲関係や同居人ということではなく、婚姻に近い関係なのではないでしょうか。私は良いと思います。この制度でパートナーとなり生活するならば、できるだけ地域に溶け込んでいただきたいし、そのためには、周囲の理解も必要なので、性的マイノリティへの理解が進むよう、多方面からの働きかけは益々必要なのではないでしょうか。
- 何も問題無いと思います。
- 自分と自分の家族では実際にそういうことが起きてみないと理解できないので判らないが、社会にそういう制度があれば受け入れたい。
- LGBTの方々がそれを望んでいるようですので、あったほうが良いと思います。
- 必要な人は居ると思う。
- 個人の自由が保障されるのなら、パートナーシップ制度も認めるべきである。
- 法的整備が進まない現状ではあるが、当人同士が良ければ、特に廻りに迷惑を掛ける事も無いと思います。
- そこまでして、婚姻を認めない理由が気になるが、少しずつ国が認めていくのであれば特に異論はない。
- 世の中の流れがこうした制度を採用する方向になっているので、鎌倉市で特段これを認めない理由はないと思う。

【要検討】

- いない。メディアが一時的に騒いでいるだけで、長期的に定着する制度だとは思えない。マイノリティには、性的なものだけでなく、国籍・宗教、あるいは身体上の障害もある。大切なのは、そうした多様性を温かく受容する広い心を持ち、行政も市民も「無理なくできる範囲」で対応すること。例えば、鎌倉市職員の中にイスラム教徒だとカミングアウトした人がいたら、すぐにイスラム教用の礼拝施設を作るべきだろうか？身体障害者にも鎌倉観光を楽しんでもらうには車での移動が楽なのに、一律に車の流入を制限することを自慢するような市政でよいのか。これらは絶対的に良い・悪いではなく、「合理的で、無理のない範囲」で温かい心で対応べき、ということに尽きる。やりたくても当面はできないものは、諦める。性的マイノリティへの対応も同様であるべきだ。
- パートナーシップ制度の導入を推し進めた自治体により先進的であると思われるのは本質的に違うと思う。人間が全て男と女の二種類だけではなくその中間も発生することはあるのが自然界ではないか。
- 法的な効力を認めないというのが謎である。そもそも男女だとなぜ結婚というものが認められているのか。ドラマでもあるように同性愛者の場合などは養子縁組という手段をとるという方法になってしまう。抜け道があり、かつそれ

によって余計ややこしくなるならば、法的効力のあるパートナー制度を認めていただきたい。国を巻き込んだお話しはなりそうですが。

- 個人としての日常生活に対しては自由にすればいいと思います。民間がLGBTの人をサポートするビジネスはあっていいと思います。しかし公的機関が立ち入ることは控えるべきと考えます。結婚/相続をはじめ法体系、宗教、社会インフラあらゆる領域でストレートの男性/女性が社会を構成していることを前提としています。この全体像をどういう形に変えるのがグランドデザインなく、中途半端に身近な問題に対処療法で公的機関が臨むのは将来不幸を招きかねないと思います。
- そのような制度があってもなくても、当事者の意識や気持ちが変わるわけではないだろうと想像する。もしそうならば、市民ないし納税者として彼らが生きるのに困らないように制度を整えるのは、行政として適当な判断と思われる。
- 中途半端ですね。家族としての責任もなく、遺産ももらえないのですか。ないよりはましかもしれませんが。同性同士でも、鎌倉市は婚姻届けを受けつけるようにしたらどうでしょう？ 地方行政からでも、結婚を認める法律を作ってもいいと思います。鎌倉市は、市としてどんな環境を目指しているのかしら？
- 制度は良いことだと思いますが、たとえば相手が亡くなった時の相続の問題など税務など法的な効力をもたせるような働きかけが必要であり、自治体だけの制度満足に陥ってはいけなように思えます。
- 法的にどんな意味合いがあるのか疑問。男女夫婦のような法的効力がなければ、せめて内縁関係とか、それに繋がる段階としてのパートナーシップ制度ならば意義が大きいとおもいます。
- 法的な意味がないなら、そのような制度があっても意味がないと思う。婚姻も認められていいと思う。同姓カップルが養子をとりたいといっているのも聞いたことがある。
- 特に反対はないが、法的な効力がないのであれば何の意味があるのかわからない。ただの対外的なアピールなのではないかという気がしてしまう。本当にマイノリティの人たちのためとなる制度を考えるべきだと思う。
- 身の性別、心の性別の他、パートナーにしたい性別、全てをばらばらである事の中が理解できるか難しい。自分自身もバラバラ、身体は男性、心は女性、でも性の相手は女性です。当事者でないとう理解は難しいと思います。
- 法的な効力がないパートナーシップ制度を認めることが先進的な自治体の証の一つであると考えるのは、疑問がある。また、偽善的で嘘臭い感じがする。
- 導入に異論は無いが、運用の仕方に配慮が必要だと思います。マイノリティーと云いながら、逆手にとって過大な要求をしているのか？と思うケースも稀にあるようなので。
- 婚姻と同等の法的効力が及ばない限り、単に性的マイノリティを受け入れるという自治体の宣伝に過ぎず、実施する意味はない。また質問2-1について。「どう思いますか」というオープンな問いに対して「多い」か「少ない」しか選択肢が無いのはアンケートとしておかしい。なお私の回答は「まず多寡の問題ではない。おそらく身近に困っている人が居る可能性がある」と認識できる数字であり、より多くの人が知るべき数字である」。
- 法的効力がないのは不十分ではないか。
- 法的な効力を持たない制度は、あくまでも「自己満足」の世界ではないのか。1自治体がこの制度を導入する意味が理解できない。
- 法治国家において、法的な位置づけを整備しないと、マイノリティの社会生活に不具合が生じるだろう。法に基づかない支援や相互理解の機会も当然必要だが、そのような部分に頼り過ぎて法整備が遅れてはならないと思う。
- 市として「認める・導入する」以上、問題や事件が発生した場合、認めた・導入したく責任が、市に発生します。市役所は、常に、「鎌倉市民の安心・安全」を、＜俯瞰的に考えてから＞導入をすべきです。
- 法的な整備が無いままパートナーを認めるのはトラブルが発生する率が高くなると思う。
- 導入の必要はない、自身で力づくよく社会に生き抜く必要がありそれが達成されてから時代の流れで認めるべき。何もかも不満だらけの社会では、正常な人もゆがめられてします。鎌倉市はもっとやるべきことがある、他がやったからと市は進歩的ですよのポーズは必要ない、絶対！！
- 特にあえて、制度化する必要などない。すでに、社会的には、マスコミや、文学その他で、本件に対する、情宣は進んでいる。偏見なども、解消してきている。従って、敢えて、同性婚姻などの制度化など必要ない。性的マイノリティ同志が、カップルを作ることを認めるといっても、法的効力もないのだから、全く必要ない。
- 税金をかけて対応する必要性が理解できない。
- 時期尚早。
- 極めてプライベートなことであり、頻繁に相手が変わる人もあり、恋愛に行政が関わりたがる意図がわからない。わざわざ届ける必要があるのか。別れたら、またそれを届けるのか。行政が性的マイノリティーに偏見を持っていないことを内外にアピールするパフォーマンスにしか見えない。
- 自治体が「何を認める」のか、その内容を示されないと回答できません。Tの方への支援は理解できますが、LGBの方へ税金を使って何を支援するのでしょうか？LGBとTを混ぜて議論することは間違っていると思います。
- 法制度によらないものならば、何ら問題ないと思います。法制度のもとで行う場合は、ジェンダーの定義などをしっかりしないといけなくなるので、何らかの線引きが必要になってしまい、それが原因で差別が発生してしまう可能性が考えられるので、無理に法的な部分に持っていけないほうがいいと思います。
- 本人たちの自由に委ね、行政があまり介入しない方がよいと思う。
- 各人の自由に任せる。
- 本当に必要なかヒヤリングや調査をして下さい。マスコミに踊らされていないか。地方公共団体は、しなければならぬもっと大事な事があるのでは？
- 通常の夫婦(家族)との違いがわからない。配偶者控除、相続といったことに対して、法的に変わらないのなら、制度の構築に関する費用が税金の無駄遣いと感じる。一方、通常の家族と同じようになると、不正(脱税等)利用に利用されそうである。
- 法的、結婚の概念が不明確。
- 多様性を認めるのは悪くないが、それが市民に受け入れられるかという別の問題。どこまでの多様性を認めるのかを公表して、それを受け入れられない人にまで強制できるかということ、法的根拠のない制度にその力はない。その強制力のない制度がどんな意味を持つのかは不透明な気がする。

- 個人間の契約でカバーすれば良いので、法や行政が保証する必要はない。

【反対】

- 個人的には神の摂理からしてパートナーシップには賛成できません。
- パートナーシップ制度をあえて導入することで、差別意識が助長されることを懸念します。よって、鎌倉市における制度導入に反対です。
- あってはならない不自然なことであり、公に認めて、権利を主張させる必要はない。外見ではわからない、内面的なことであることを利用して、詐欺や居直り強盗的な不法行為を助長するだけ。最低でも一寸たりとも法的な権利や効果が発生することがあってはならない。
- 自然の摂理に従っているマジョリティとしてのノーマルなカップルの支援を十分にできてるならばマイノリティへの支援も構わないと思いますが、そうでないならばその導入を断固反対します。

【その他】

- 多様な社会という割には制度が整っていないなと思いました。
- 認めるだけでなく、環境も整えていく必要があると思う。学校での教育も必要である。
- 男女の通常結婚ですら破綻するのだから、結婚が男女である必要はもはやない。海外では子供に恵まれないゲイカップルが里子制度を行って、両親がいない子どもを幸せに育てることも多いので、日本も自然と受けられる世の中になってほしい。
- 法的効力がないのであまり関心がない。
- 生き方を否定するよりも、肯定できる街であってほしい。
- 自然に任せ、特に差別はしない。
- 当たり前のごとくですごいなど特に思わない。
- あくまで人間の平等に基づき、制度で縛るものであってはならない。
- 性別関係なく、パートナーになれる社会になってほしいです。
- 自治体の様々な制度を適用してほしい。
- 自治体が認めることによって具体的な効力などについて教示ください。
- この制度について初めて知った。意見を言うほどの理解が出来ていない。
- 私はどのような価値があるのかが理解できていません。
- グローバルな時代に対応するためにも早い機会にまた多くの人が性的マイノリティに対する理解を深めるべきだ。
- 個人個人の考え方、生き方の世界的な流れでしょう。
- とくに関心がございません。
- ちょっとおかしいじゃない？ 普通はそんなことしないでしょ。「普通」って言葉を何気なく使っていますが 普通って何でしょう。10人いれば10通りの普通 100人いれば100通りの普通。基準はすべて自分の心の物差し。自分の物差しで測れないものは普通じゃないってことでしょうか。普通ではない人をいじめる？ 価値観の違う人々が一緒に暮らすようになって久しい時代ですから。昔は 同性愛患者とか染色体異常とか いろいろな言い回しがあったようです。性的マイノリティについて 私の場合は普通とはどういう意味でしょうか。LのカップルはOKです。近くに居ても大丈夫。Gはダメ Gが私を狙って近づいてきたことがありますが逃げましたね。Bは外見ではまるで判らないからOK。Tは医学的処置済みという事でしょうか。隣にLのカップルが来ても大丈夫ですが、GとGのカップルが引越して来たら気持ち悪いですね 居心地がよくありませんよ。多様化の時代ですし 寛容の心を広く持てば こちらに迷惑さえかけてこなければ、どんな人が隣に来てかまわない…かもしれません。難民だって受け入れてしまうかもしれませんね。私たちは縄文時代晩期から渡来してきた人たちの子孫なのですから、いいんじゃないですか LもGもBもTも 迷惑さえかけてこなければ。
- 1.現在の社会環境ではいろいろと障害があるのではないかと。固定観念に世界で生活してきた年齢がいった方が増えている環境ではなかなか認知できないのではないかと思います。2.時間が解決するのではないかと考えます。
- LGBTも大事だと思いますが、我が家の今泉台の近所の老人達の買い物事情なんかならないのですかね？江ノ電バスは充実して巡回はしてありますが買物の荷物を持ってバスの乗車大変だと思います。ミニスーパー誘致願ってます。北鎌倉駅に抜ける道も明月院の小道しか無いので道路拡張か時間差信号を設けて住民が使いやすい路を作って欲しいと願ってます。
- 鎌倉市の行政がマイノリティの方々にエネルギーや時間を使う事に反対しませんが、同じようにマジョリティにもエネルギーや時間を使ってほしい。例えば、観光客が多く、マナーも悪くて生活しにくい、ミニ開発で街並みの良さが破壊されているなど。
- 多様性、多様性と言いますが、その前段階において、男である事、女である事の重要性、尊さを教えていないと思います。両親、祖父母、先祖を大切にするという、古き日本の良い所が…根本がスルリと抜け落ちてしまっている。ヘイトだなんだといいながら、自国民をヘイトする。こんな事は間違った教育のせいだと思っています。間違った教育の上に根ざしたパートナーシップなどは、そんな個人さえ大切にしない制度だと思います。今となっては、パートナーシップ、多様性と言葉を並べてしまうのは仕方ない事かもしれませんが、それと共に鎌倉市は、その辺の教育にも是非是非！心血を注いで頂きたい！今の自分がどんなに素晴らしい自分なのか気づくためにも…！

広報かまくら6月1日号の「共生社会」の1面に関連したためか、今回、予想を上回る多くの方から、ご意見を頂戴しましたことを大変うれしく思います。厳しいお言葉もありますが、率直なご意見が頂けたことは本当にありがたく、改めて気づかされたことが多々ありました。

性的マイノリティの方々、自殺念慮の割合が高いとされ、喫緊の課題にもなっています。学生時代に友達と違う自分にとまどい悩み、自分自身に嫌悪感を抱き、自分を受け入れた後も周りのコミュニティに入れず孤独を抱え…。「ばれたくない」「そっとしておいてほしい」と願う当事者がいらっしゃることも心に留めながら、パートナーシップ制度をはじめ、正しい知識が身に付けられるような啓発活動を行い、「あなたはここに居ていいんだよ」と伝えられる、やさしい鎌倉市でありたいと考えています。そのためにも、みなさまのお力添えを今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

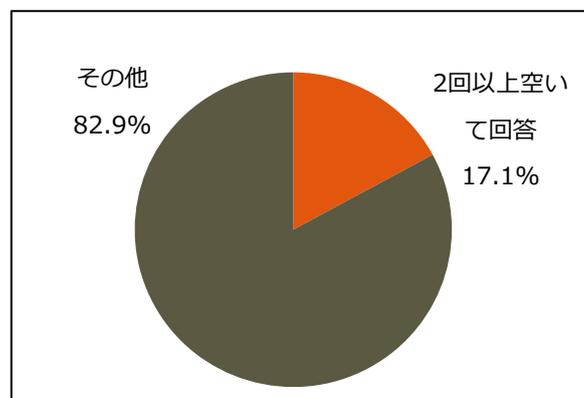
【文化人権課】

【参考】eモニターアンケートの実施にあたり2回以上空いて回答された方の割合

第45回「広報事業について」

回答者…117人

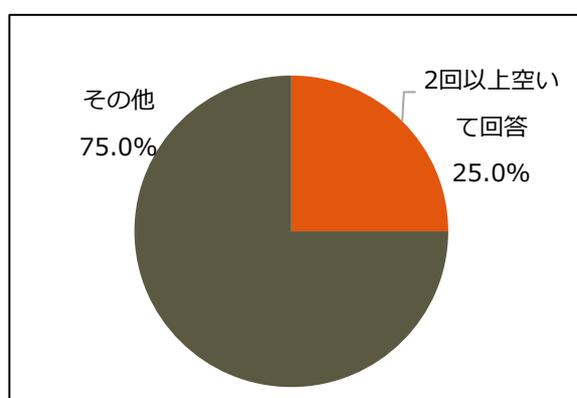
2回以上空いて回答された方…20人



第46回「性的マイノリティについて」

回答者…156人

2回以上空いて回答された方…39人



鎌倉市 共創計画部 広報広聴課 広報広聴担当
〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号
TEL 0467 (23) 3000 内線 2506
FAX 0467 (23) 6505
e-mail : emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp